

【受式者】前田 敏夫（まえだ としお）さん
[新潟教区第6組善念寺門徒]

【法 名】釋精敏（しゃくしょうびん）



—真宗本廟奉仕をご縁とした帰敬式受式までの経緯を教えてください。

私の父も、父の兄も、善念寺の総代を務めていました。お内仏には、父の肩衣があります。私にもそのバトンが回ってくるのかなと思っていたところに、住職さんからお話をいただきました。

—お一人での受式でしたが、心細くはなかったですか。

善念寺の副住職をはじめ、奉仕団の仲間が後ろで見守ってくれたので、安心して受式できました。中学の修学旅行以来50年以上ぶりに真宗本廟に来ましたが、想像を超えた建物のスケールの大きさに吸い込まれました。当時のご門徒はどんな気持ちでこの建物を造られたのだろう。悩みや悲しみを抱えながらも生きられた、たくさんのご門徒の思いがあふれているように感じました。

—これからの歩みについて教えてください。

まずは、誓いの言葉でも述べた、朝夕の「正信偈」のお勤めをがんばりたいと思っています。

私は、42年間県職員として仕事をしてきました。たくさんの経験を積み重ねる中で、自分はどんなことも「わかっている」と思っていたんです。それまでは仕事がすべてでしたから、知っていることだけで生きていけると思っていました。退職後、お寺に行ってお話を聞くと、初めて聞くことばかりで何にもわからない。「正信偈」は親鸞聖人が作られた偈（うた）であることも教えてもらいました。同朋会館で「我々は知っていることの方がむしろ少なく、知っていることだけにこだわっているだけにすぎない」という言葉に出会いました。まさに私のことです。これからもお寺に行って「わからない」を住職さんと話し合いたいと思います。

受式後「はじまったんです」とおっしゃっていた前田さん。帰敬式はスタートライン。忘れたり、迷ったり、間違えたりした時はスタートラインに戻って、また歩みだしたいとおっしゃっていました。